



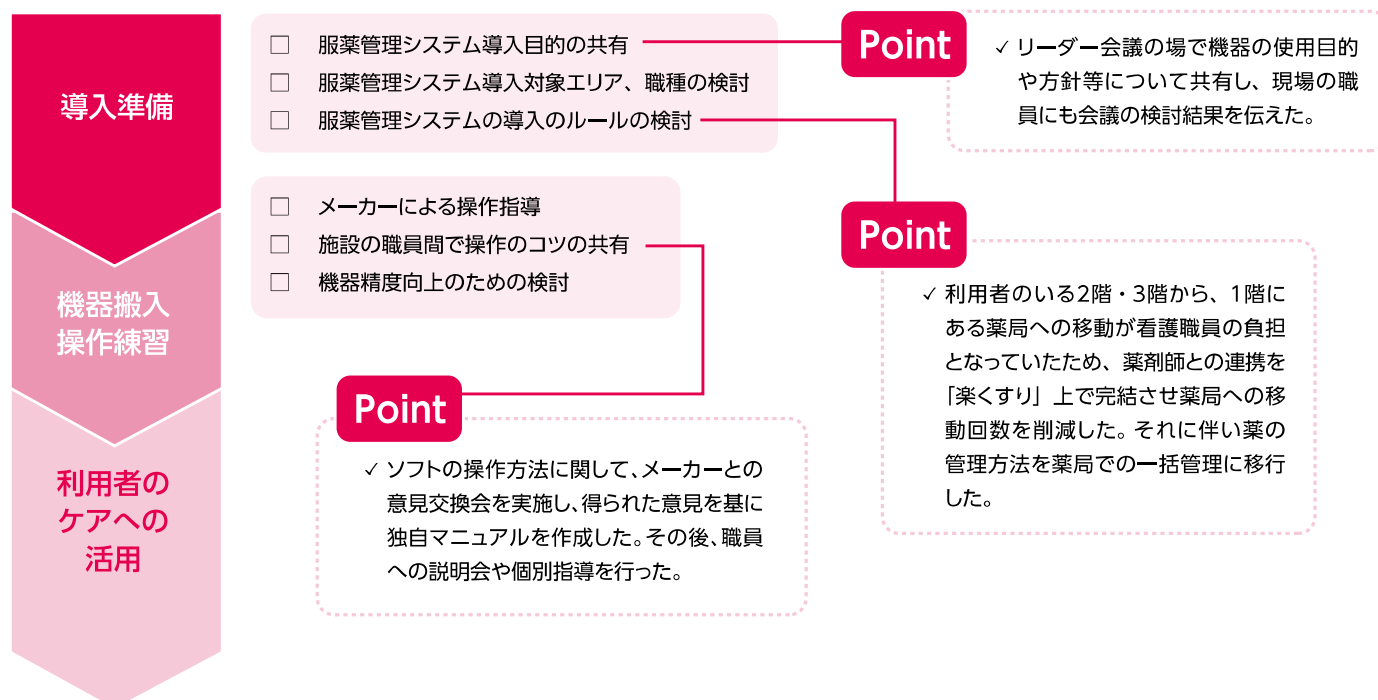
施設概要

設立年度	1993年9月
所在地	滋賀県長浜市
職員体制	介護職員33名、看護職員13名
利用者状況	定員104名 入所者104名(要介護1 17名、要介護2 23名、要介護3 37名、 要介護4 18名、要介護5 8名、申請中 1名)

手順3 実行計画を立てよう

介護ロボット導入前の課題 (介護ロボット導入前の状況)	目的、目指すべき姿・方向性 (介護ロボットを導入する目的)	介護ロボット導入後の内容 (活用に向けた工夫・変更点)
✓ 薬剤管理は持参薬や在庫管理、副作用の把握、服薬・薬剤についての家族説明、定期処方への切替、与薬管理、介護職員への薬剤指導等多岐にわたり、担当する看護職員への心身への負担は相当なものとなっていた。	✓ 服薬管理の ICT 機器 (楽くすり) を導入し、薬剤情報の自動読取による持参薬登録・処方箋作成等の入所業務の時間短縮や、処方の一括管理・ペーパーレス化による入所中の処方箋の作成・分包等の業務時間短縮に取り組む。	✓ 導入前は各フロアで利用者の持参薬を管理し、看護職員が施設内の薬局へ往復して調剤業務を行っていた。導入後は、薬局で持参薬を一括管理するように管理を見直して、薬局への移動回数を半分に以下にした。
✓ 月平均 30 名程度の新規入所者がいるが、看護職員が薬剤情報を電子カルテに手入力するのに、新規入居者 1 人当たり平均 40 分の時間がかかり、他業務の時間を圧迫していた。	✓ 業務効率化による残業時間の削減と専門職業務への専念を目指すほか、看護職員の心身の負担の軽減や、医師や薬剤師の業務負担軽減、薬剤コスト削減や減薬にも取り組む。	✓ 薬に付与されているコードの文字が小さく、高齢の職員が読み取ることが難しかったため、QRコードの読み取り機を導入し、誰にでも楽くすりへのデータ入力をできるようにした。

手順4 改善活動に取り組もう

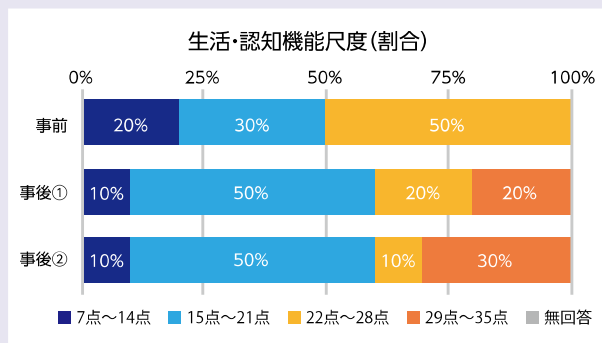


手順5 改善活動を振り返ろう

利用者への効果

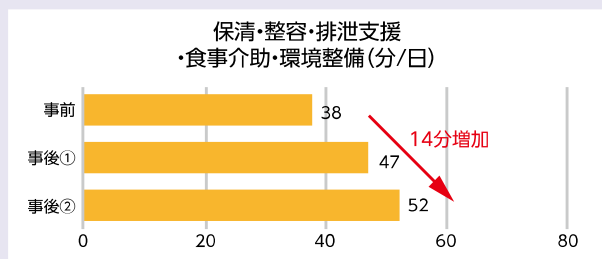
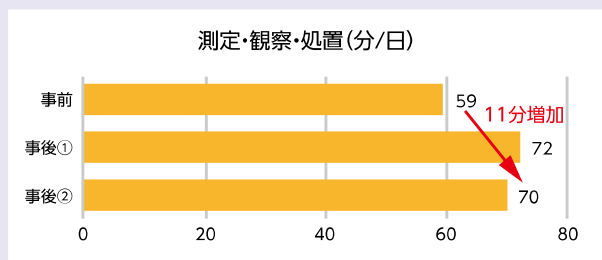
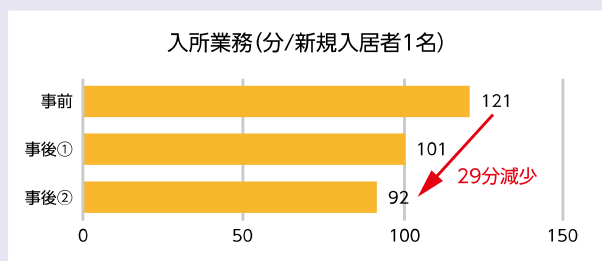
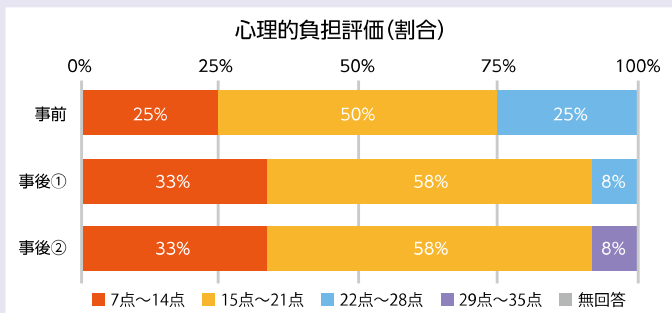
- ✓ 生活・認知機能尺度は、事前では29点以上は0%であったが、事後①では20%、事後②では30%に増加した。
- ✓ 「楽しくす」の導入目的として、看護師の薬剤管理に関する業務を効率化して専門業務の時間を増やすことを掲げており、利用者と接する時間が増えた結果と思われる。

- ✓ 看護師としての業務を通じて利用者と関わる時間が増加し、利用者の安心感が高まったという意見があった。
- ✓ 利用者とのコミュニケーションの時間が増えたことで、状態改善にもつながった実感があった。



職員への効果

- ✓ 職員タイムスタディ調査では、新規入居者1人当たりにかかる入所業務の時間が、事前から事後②にかけて29分減少した。※ここでの入所業務とは、「入所時の説明」「バイタル測定」「持参薬の確認」「薬剤のセット」「ダブルチェック」「その他入所に関する業務」が含まれる。
- ✓ 看護職員の専門業務では、利用者とのコミュニケーションの機会となる「測定・観察・処置」の時間が、事前から事後②にかけて11分増加した。また、同じく「保清・整容・排泄支援・食事介助・環境整備」の時間が、事前から事後②にかけて14分増加した。
- ✓ 心理的負担評価では、「弱い」の割合が事前の25%から事後①②では33%に増加した。「やや強い」の割合は、事前の25%から事後①では8%になった。(事後②で「強い」が8%となったのは、新規入居者対応が増えたことが原因であった。)



- ✓ 薬局への移動回数が、1日当たり8回程度から3回程度にまで削減できた。
- ✓ 薬剤登録をすべての看護職員ができるようになり、職員の業務負担が平準化されて心理的な負担が軽減された。



振り返り(施設の声)

- 【職員の反応】薬局への移動時間が削減できたことは効率化だけでなく身体的な負担の軽減にもなった。また、処方箋のペーパーレス化により業務が効率化したこともあり、薬剤管理のための残業時間はゼロになった。
- 【今後の課題】薬の登録に使用しているQRコードについて、利用者が服用している薬の数だけQRコードを読み取る必要があり、かつQRコード自体が小さい。服用している薬の種類が多い場合、QRコードの読み取り漏れが発生してしまった。QRコードを1つ読み取ればよいようにするなど、QRコード自体の改修等を検討し、ミスなく効率的な業務に繋げていきたい。